

劇団かうつかせ

第18回定期総会
(運動方針案)

I 基本方針

- (1) 主体的、創造的、現代的、地域にとけこむ様 (い) んな方法で
ぼくらの演劇活動の情熱を燃やそう。
- (2) 一人一人が舞台創造者として自覚をもつ。自分の課題を明確にし、
一つ一つ少しずつでも克服する様 前向きに 努力しよう。
- (3) 広く門戸を開き、多くの新人の加入、育成により、集団の活カ
アップをはかろう。
- (4) 現ヶ相場移転にともなう諸問題をみんなで解決し、新ヶ相場
建設に、一人でも多く参加して、がんばって建てよう。
- (5) 全リ演への結集を強め、全国の経験と発想に学ぼう。
- (6) 志を同じとする地域の文化団体との協力連帯を強め、劇団と
地域住民との交流に 努めよう。

II 公演方針

- (1) レパートリー選定を先行させることにより、計画的で余裕のあふ 質的に
も深く、話題性を持つ普遍的にも拡がりのある公演活動を生み出そう。
- (2) 本公演については、ここ2年間で3回の本公演を実現しよう。
1. 本目…… “あ、野麦峠”、 2…… 3……
- (1) レバ選定を先行させヶ相場期間を確保することとで公演方針(1)項の
内容を実現させよう。又 2、3年後のレバ選も考え 演観協に
提出……
- (10) レパートリー的には作品のポルテージがふし、ヶ相場熱意がそのまゝ
に表れていし、そういうスタイルをつくり出し、良い作品を選ぼう。
- い 普遍的には一人でも多くある様 努めよう。(各1000名)
- (3) 小公演については、1回でも多くの公演を実現しよう。(20)
- (1) 劇団の輪を拡げ、財政的基盤をゆるぎないものとするために
公演数の確保をはかろう。
- (10) 小公演だからと、やつつけ仕事になることなく、作品としての完成度を
高め、また来てもぶいたいという声の出るような公演としよう。
- い 小作品を提供するにとどまらず、その公演場所、観客層に合わせ
アウスアルファーの出しものを考えよう。
- (4) アトリエ公演を確立しよう。

Ⅲ 組織方針

- (1) 生き生きとした活気がある劇団活動で、方針実現をはかろう。
劇団組織をつくらう。
- (2) 運営委員会の機能を強化し、問題抽出を先行させ状況を先導する組織にしよう。
- (3) 座内誌活動をさらに活発定着させ、組織活動の潤滑油としよう。
- (4) 回費“前納制”を実施し、健全財政を確立しよう。
- (5) 他団体の催しや文化行事などの受け入れや情報キャッチを的確に行い、それに積極的に参加することによって劇団の輪を広げ同時に自己を豊かにしよう。
- (6) 劇団OB会を事務局におきOBとの結びつきを強めよう。

Ⅳ 新人教育

- (1) “演劇教室”での発表会を成功させ劇団活動への参加を呼びかけ、受け入れ態勢に万全をきとう。
- (2) “演劇教室”とその後、の新人教育の取り組みにより一人でも多くの新人を加入させよう。

組織配員

運営委員会

大田
平田
道芽
葉

新

西井

千谷会 村

麻美

力

藤原

中 京子

常任運営委員会

新
千谷会
麻美

平田

事務局

< 平田 (主)
京子 (次)

財政 (主) 佐佐子

座内新 新 → 南 → 船更 → 葉

湯外 — 麻美

全順 — 西井 柳林 葉

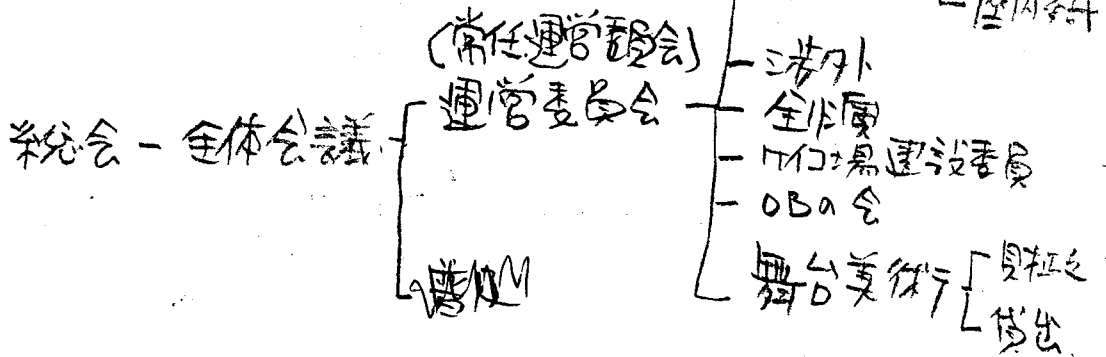
何場建設 — 布施 公平

OBo会 — 平田 京子

普及 — 道芽 (財政) 公便財政 ~~藤原~~ 藤原

舞台美術 — 財政 麻美 演出: 布施

組織圖



規約

総会一次期総会までの計画立案
 今期に必要となる総会料
 入退団者の不確実性

全体会議 - 公営体制の決定
17日土曜 運営の決定

一、委員會

公演四役 — 公演、運営

前任運管委員會 - 運管委員會人問題也提起

事局 — 一般行政 專政 — 組織專政

紙一機閥紙

滿外 — 地集團の4ヶ所と1ヶ所。

全川 — 行車參加, 也參加、個別交流 諸會議

江仁堤建設 — 江仁堤にわたる金柳

S58年度

1963

氏名		1月分	2月分	3月分	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分
布施佑一郎	4500	$\frac{3}{4}$ 4500	$\frac{4}{8}$ 4500	$\frac{4}{8}$ 4500	$\frac{4}{27}$ 4500	$\frac{5}{8}$ 4500	$\frac{4}{3}$ 4500	$\frac{6}{27}$ 4500 4500 4500	$\frac{1}{29}$ 4500	$\frac{9}{5}$ 4500	$\frac{10}{7}$ 4500		
坂田真生 (栗山)	500	$\frac{3}{4}$ 500	$\frac{4}{8}$ 500	$\frac{4}{8}$ 500	$\frac{4}{27}$ 500	$\frac{5}{8}$ 500	$\frac{4}{3}$ 500	$\frac{6}{27}$ 500	$\frac{1}{29}$ 500	$\frac{9}{5}$ 500	$\frac{10}{7}$ 500		
宮下公平	3500	$\frac{4}{3}$ 3500	$\frac{4}{3}$ 3500	$\frac{11}{14}$ 3500									
深沢大助	6000	$\frac{2}{11}$ 6000 (6000)	$\frac{7}{11}$ 6000 (6000)	$\frac{5}{9}$ 6000 (4500)	$\frac{3}{9}$ 1500 (4500)								
最上三平	3500	$\frac{3}{4}$ 3500	$\frac{3}{4}$ 3500	$\frac{4}{11}$ 3500	$\frac{7}{11}$ 3500								
西井学	3800	$\frac{1}{3}$ 3800	$\frac{2}{9}$ 3800	$\frac{4}{6}$ 3800	$\frac{5}{13}$ 3800	$\frac{6}{13}$ 3800	$\frac{7}{11}$ 3800	$\frac{7}{11}$ 3800	$\frac{11}{14}$ 3800	$\frac{14}{4}$ 3800	$\frac{14}{4}$ 3800		
平井新	3000	$\frac{4}{10}$ 3000	$\frac{4}{10}$ 3000	$\frac{4}{10}$ 3000	$\frac{4}{1}$ 3000	$\frac{4}{1}$ 3000	$\frac{4}{1}$ 3000	$\frac{4}{1}$ 3000	$\frac{11}{12}$ 3000	$\frac{11}{12}$ 3000	$\frac{11}{12}$ 3000		
广田平助	4000	$\frac{1}{9}$ 4000	$\frac{2}{9}$ 4000	$\frac{3}{12}$ 4000	$\frac{4}{6}$ 4000	$\frac{4}{6}$ 4000	$\frac{6}{5}$ 4000	$\frac{7}{6}$ 4000	$\frac{7}{6}$ 4000	$\frac{7}{6}$ 4000	$\frac{13}{17}$ 4000		
山本則子	500	$\frac{4}{5}$ 500	$\frac{4}{5}$ 500	$\frac{4}{8}$ 500	$\frac{4}{2}$ 500	$\frac{4}{2}$ 500	$\frac{7}{1}$ 2500	$\frac{4}{24}$ 2500	$\frac{4}{24}$ 2500	$\frac{9}{24}$ 2500	$\frac{9}{24}$ 2500		
石原弘美	2000												
内藤裕子	2000	$\frac{4}{10}$ 500	$\frac{4}{10}$ 500	$\frac{4}{10}$ 500	$\frac{11}{21}$ 500	$\frac{11}{21}$ 500	$\frac{11}{21}$ 500	$\frac{11}{21}$ 500	$\frac{11}{21}$ 500	$\frac{11}{21}$ 500	$\frac{11}{21}$ 500		
伊藤直芽	1000	$\frac{1}{4}$ 1000	$\frac{4}{8}$ 1000	$\frac{4}{8}$ 1000	$\frac{4}{8}$ 1000	$\frac{5}{9}$ 1000	$\frac{4}{8}$ 1000	$\frac{5}{9}$ 1000	$\frac{9}{5}$ 1000	$\frac{10}{4}$ 1000	$\frac{10}{4}$ 1000		
鈴木一恵	2000	$\frac{8}{8}$ 2000	$\frac{8}{8}$ 2000	$\frac{8}{8}$ 2000	$\frac{8}{8}$ 500	$\frac{8}{8}$ 500	$\frac{8}{8}$ 500	$\frac{8}{8}$ 500	$\frac{8}{8}$ 500	$\frac{8}{8}$ 500	$\frac{8}{8}$ 500		
石津行京子	1500												
藤井	8000	$\frac{8}{8}$ 2000	$\frac{8}{8}$ 2000	$\frac{1}{8}$ 2000	$\frac{5}{8}$ 2000	$\frac{5}{8}$ 9000	$\frac{4}{10}$ 8000	$\frac{8}{9}$ 8000	$\frac{7}{25}$ 8000	$\frac{9}{14}$ 8000	$\frac{9}{14}$ 8000		
シズカ 野村進一	4000 300	$\frac{1}{5}$ 4000	$\frac{1}{5}$ 4000	$\frac{4}{7}$ 4000	$\frac{4}{7}$ 4000	$\frac{5}{7}$ 4000	$\frac{6}{3}$ 4300	$\frac{6}{3}$ 4300	$\frac{7}{6}$ 4300	$\frac{9}{14}$ 4000	$\frac{9}{14}$ 4000		

2023

	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分
村松 薫	3500 4/8	3500 5/9	3500 6/3	3500 7/1	3500 8/27 10-12月	3500 9/12	3500 10/8	3500 11/8	
古橋千絵	3300 4/27	3300 5/18	3300 6/3	3300 7/18 8/22	3300 8/29	3300 9/5	3300 10/8	3300 11/8	
坪山 人	500 4/27	500 5/11	500 6/27	500 7/25					
戸塚 美樹子	3000 5/9	3000 6/7	3000 7/8	3000 8/4	3000 9/29	3000 10/5	3000 11/4		
鈴木 京子	3500 5/9	3500 6/15	3500 7/15	3500 8/1	3500 9/1	3500 10/1	3500 11/1		
羽場 中子	2500 4/27	2500 5/18	2500 6/15	2500 7/18	2500 8/22	2500 9/12	2500 10/12	2500 11/12	
鈴木 克典	3300 4/27	3300 5/18	3300 6/15	3300 7/18	3300 8/22	3300 9/12	3300 10/12	3300 11/12	
起 坂 賢一	2000 4/27	2000 5/18	2000 6/15	2000 7/18	2000 8/22	2000 9/12	2000 10/12	2000 11/12	
青嶋 周美									
森原 光浩									

昭和58年12月23日(水) 現在

前期(557) 繰越金 270075円

今期(558) 収入 947656円

今期(558) 支出 511335円

差し引く残額 706396円

内訳

収入 --- 団費

支出 ---

々々々々々々々々 (270000円)

TEL代

電報代

電話代

水道代

くみり代

ガス代

東リ貸金

貸金

借入金 (100000円)

々々々々々々々々 (100000円)

その他

これまでの経過

・ 産市はがき 公演

2/6

20

26

3/13

20

秋物重公上演

5人体制の重演
総数 13701人

・ オフ演劇大学

2/11.12.13

670人参加

・ 演劇教室 制作コース公演

3/27

「新加内松」

5070人(観客)

・ 演劇教室 が終了 (日本初演)

3/30

・ 野麦公演に入る

4月～

・ 劇団村270 都田川

7/30

30700人参加

・ 全演東京議 総会

8/20.21

布施佐一郎(代表)

・ 「野麦峠」公演

1983年 10/5.6.7 約900人(重演)

・ 30周年記念公演

10/9

60人参加者

175

「人を食った話」

—現状をみて上演中止から—

1983年、1月20日決定

「夜明けは静かだ」(82年9月4, 22, 23, 26, 29, 30日)体制の途中で「人を食った話」の作品が決定される。

市芸術祭(11月7日)では、おかね役が鈴木一恵から藤井良彦にかわり上演されました。その後、もとにもどし鈴木一恵で練習が行なわれました。その後、「彦市ばなし」との2班活動が難しいのではなにかということがあり、1本にしぼるべき話し合いをしました。

結果、最上三平中心で2班活動を続けていくことになりました。

ケイコ日は、月が彦市、木が人食い、金が合同ゲイコと決まり、これでいいということになりました。これは、互いのバラバラをなくそうとするためであります。

ところが、83年1月20日現在は、集中が悪くケイコ不能となりました。そのことから、「人を食った話」をやめにするということを決めました。

二度と、この様な事はゆるされたい。

かき 系
から、運営委員会

83年、11月10日

「産市はなし」のまとめ

西井 孝

11回日数は、全体で31回です。公演は5回ありました。11回日数と公演場所の総数は、20回で、大森公演、3回で佐久間公演、1回で三好地公演、5回で敷地公演、2回で神奈川公演でした。

この公演では、芝居とおおせて、みんなと遊ぶという、加前をつけ、劇団の紹介、発声と体操、無対象の歌、おどけ、リポーターズを毎日合わせ、観客の子供達をまきこんでたのしくおこないました。

これで学んだことは、現代の子供達は現代病の中でうごめいているという感じを持ち、これは私がそういう印象はどこか会場で受け止めていた。明るく元気な、自由な子供達に反対に感じました。今の子供達の元気さを肌で感じるのは一番の談得性を持ちました。

一方芝居の方は、人がおどめくに向かってつぎ進む時に色んな障害がうまれる。それをリレーのようにして、考え、行動にうつす。その時、人間のまけさとする。なんとしても手に入れたらと思う行動におもひつくと、観客の心をとらえるものがある。とした方がこの意味にはもろくだったように。

成果

- ・11人数(5人体制)で5回の公演を無事終ることが出来た。
- ・直芸と劇の天狗の3回自由な演技ができた。
- ・11回日が中止になることなし、定期的な11回が出来た。

反省

- ・観客に役と役の関係づけを形象でまわす演出がうまくいかなかった。どうして全体の談得性の高さを。

全体をとおして

- ・集中者の多い11回は自然とメリハリ感を感じますが、11人数の11回は非常にさみしくなる。これは大森の間見直しをいかに、全体的な創造性で芝居はつくらないとすれば、一人の努力の方向に芝居は成立するのだ。

産市はなし のまとめ

多くの人に読んでもらったということがいえる。人数は1370%
である。この産市場にはたくさんあるというのを信じている。
ということも産市場と密接にならなければならないことでもある。

また、この企画はあったのだ。これは

平田氏の各土地主や人のほか、主かけによるしくみと

このなしたことは、本公演・小劇場公演と本公演
公演との二本立ての



センター公演

システムの公演ができる能力を
劇団は持っている、用意することができるといえることだ。

ここには劇場というものがたくさんある。これは、二つ
一割から土地主の中へ分けたい。これに、同じ人達が
みじかに知るところを劇場に作るのがある。これは
ライトをつたり、印を設置、幕をはたき、本場、ゴザの
用意まですべてするのがある。

・産市場が同じようにしてある場所を我々が劇場に
つくりたい。ここにはこの土地の人のためのことである。こ
れをいってつくることである。

中心地以外の地域に、文化団体がこれにたい
向かや村に、かきかきかきこれに、今まで一層も二層
分達の、この国でこれにたい。芝居を、みじかに場所
でつくることである。これに、産市場と一層になら
ず、つくることである。

劇場とは、おもしろいところとか一層の、劇場は
二つ一割からつくる劇場のことである。

この辺りに、これに劇場を用意する。これは二つ一割の
主体的行動に、おもしろいところ、これに劇場は
つくることである。

三 演劇教室 のすてぬ

これは6ヶ月の期間で行われる。その毎週一回で水曜日を教室の日とし、定期的に各教室に於けるものである。これは講師の各教室をスケジュールとの打ち合わせの努力を要する。大目玉にござります。

また、教室の中に制作コースをもう一本の星を創り出すことも大変な活動力でありました。

教室の方では各講師からいい話を聞くことが出来た。

制作コースではその中のX2ハ―がほとんど入団という状況になり、創団が出来る力を要することができた。

一方創団ではこの教室、制作コースとともに、ほとんど五人集の体制で星を創り出すことが出来ていました。

これは、つまり、教室への集中、制作コースの公開、産不ばなし公開とやらでござることは、それなりに大きな環境下に創団があらたな努力のたまものなことでござると思ふ。

左のこの教室の企画は今後、その創団の力に元気でござると思ふ。でもこのX2ハ―は手放してしまふと思ふ。つまり、講師を創団員が受け持つ。その中のX2ハ―の国玉講師を二人ぐらいもつとることも、この教室は手放してしまふと提案する。そのその中の発表会、という一本の星を創り出すコースをもう創団員への道を開きたいと思ふ。

最後に、本々その講師陣を一回の集まりで半年の計画でやらせ、集団は日本にこの“おもしろ”なX2ハ―は、これこそ、強固にしたいと思ふ。

30周年記念レセプションのすてぬ

創団内の事務局をもち、OBとの関係をさらに強化しよう。(普段のうちに於ける関係をも)

全三演のまとめ

西井 啓

三演劇大学

2月11.12.13日 大宮市八重垣荘

参加集団は25集団でした。

からかせからは 西井、大田、布施、村松、古橋、美和、が
参加しました。今回の大学では遠坂修氏の講演演が最大の収穫と
ある話でした。また「新劇界の現状」野村喬氏「言語」初果の
はるし、田村 寛、も大変おもしろく、方々に響かれています。

各分科会では 実証的の内容でおいなわれました。

東会議・山形ブロック会議

7/4(日) これには西井が参加しました。内容は1年の
各劇団の活動状況とこれからの方針とこれからのこと
新劇界交流の日程の決定、来年のブロックセミナーの
担当劇団は青森県が受け持つ、ということが決められ
ました。このブロックの劇団のネットワークが全三演
から脱退することになり、ブロックの姿を消すことにな
りました。今の三劇団で ますます交流と連帯を深めて
いきたいと思います。

東会議・総会

8/20.21. 大宮市八重垣荘

参加 布施 依一郎

10/27 運営委員会 議題 野泰山夫のまじり

1. 集団として

役者は相手役、裏、舞台により変化する。ということは
回りの王様土境が(1)状況にあるということ。これは
創造的集団にならなければならないこと。

演出が色々なことで回りが色々な文をすることが
あるがこれはこの回りの王様土境に関係がある。つまり
我々は今創造的集団でこの王様土境下にあるということ。
つまりは物理的のことで言えば自分達のケイコ土境があ
るということ。本来の舞台機構でいくぶんの「1」は
あるが、そのもとで公演のためのケイコが具体的にふし進め
ることが出来るということ。このふしみがある。

からいせは以前に苦々に力を、創造に力を、というこ
で大量のチラシ宣伝、演出者の増大、役者の強化と
色々な目標を立て活動し進んできた経過があり、それは
経路となり高積している。つまり、いいものを創り出し、そして
観客にいいものとどけようという意識が強く働いて
いるということである。またそのための努力と自分との打ち合いがあ
ったということでもある。このいいものを創りだすという意識
が底辺に根ざしている強さがあるから、またそれが自分の
目標となり、いい王様土境をうたげようとはなれやというこ
を言っている。いいものを作るには努力と自分との打ち合いがある。

演出が色々言うことで回りが重くということ。そういういい
ものを創りたいという意識があるから、努力を怠りたくない
から色々進められたのである。

現状にも色々劇団があるがこういう環境下にあるのは
ないの。またケイコ内の集結を演出者、舞監が先頭
だっているのはからいせだけだ。

このからいせのふしと王様土境がこの集団の鬼力
でもあるし二のふしにはいい役者、いい舞台、いい普及、
からいされること出来る。

芝居の構築の仕方か人によてちがうし、その人の弱士がある。
また役者において、役者の中にセリフが生まれて前に公演日
が来て(まゐり)、役者を手とり足とりでする場合は、
役者自身のもているイーストをセリフとしてしまう場合もある。
いざこれにこそ演出の力が発揮される。いざこれ
ともあるが、今回の公演は回りの芝居の質がかなり
あつたといふ。回りがいい。人々のあつたと。それによつて
パワーによりこの公演は良い反響のもててゐる。

2. 個人的なことはどうか。

これは各個人の芝居に対する環境、度によてちがう。
というには、初めて芝居にふれたし、また以前に芝居の経験
馬車のある人、劇団の中での芝居の経験、年々
によてもちがうから一つにはまとめられない。

新人達については芝居の経験のある人、右の人、アルケート
をみるとわかるが、ここにみることも出来る。言わば、舞台に
立ててみてよかったという意見と、芝居の楽しさを失つたとい
う意見にまとめることが出来る。

また、少人数の芝居創りに芝居の経験してゐた人は多数の
仲間の中での楽しさをえたといえる。

小作品の芝居創りに芝居の経験してゐた場合、大抵での芝居
創りにては、意の活動におかれ、満足な演出を受けられず
中途半端な形におかれてゐる。

しかし、この大作をよく作り上げたもの、という。つまりハゲツ
イスケとユーシのもと、連日、夜日のおいにみげにである。
こんな生活をしたのは初めての経験である。1トの日程を
よくたえぬもの、一人一人の力量のちがひ、意、意の層の
ちがひ、筋力、力のちがひがあるのに、それが結果集した。

その1トに場人の集中でのパワーが公演に集まる。

新人が集まり結果集したことで、この公演は成りたつた。

3各110人、まじり

照明 — 翌日通リ、このフィルムで「エタガ」タキ出しがなれた。

衣 着 — 役者が自分の物をどう扱うか、という意識が大切だ。更生活の衣装以上に気をくばることは無い。

着るということの4倍に対しての安さ(ほり)は葉巻
がけから左の2つはなか、なか。

小道具 - ケイロの初期の回時期に什用品で21111から要意、
に活用していくことの徹底度がある。この
レポートがある。それを212111ともし、ある。

効果 — まきわにすゝはみりが発生する。はねにとりかへい
あそびといふものはないとつかれる。

X-7 ー 個人が受け持つ形になる

セクト一、これは集団的に進められ、他の各部分には個人的にプレイする機会に与える。

その人が、ケコ^キに出来た所から、その
核として、その人が、また出てくる。

4. から、が世に残ったもの.

人員が±増えたということがあがる。これは大田カ氏の企画と
発案であり、演劇教室と今度の参加者募集をこの野麦公演
が、この企画を通じ、なんと15人以上の±増加をみる。

今の人員は戦後はじめ、21511の人数で全体の活動で20人
数もあげると3272である。残りの人数を占める年齢は必要
な2人。

この新人達を考えると特徴的傾向は 受け身的人材に
なりがちにあるということがある。これは一本の芝居を創るという事
も前も、已知、これば話は別だが。つまり 研究生制度
が及ぼす、このメンバー達の中で作品が選出され決定に及ぶ。

期生担当が演出しなければならぬ。これを中心に人々は具体的人に
伝へていく。キリスト、スタッフがまきりセイトなどもうけられ
いく。キリスト、キリスト、レバノンから発行する。一本、伝へる。自分
達の手にくくることを体得するのぞい

この経験をもとに劇団員として入団してきた人間と、せい
劇団員の創り芝居の中に入ってきた人とは、当然受
けとり方がちがう作風向がうまれることがあがる。
またこの時期の期生達の輪と団章は消えることがなく
残ることとして劇団員として入団した後も強く作用する。

これは別にしても一本の芝居を創りということでは受け取り
る主体的行重なるにはならないということも問題として
次回、新人あゆみの仕方をせよなにはという。

座学にしても一団の芝居のその際を全員が受けるということには団
章をうまのに作用することになる。

5.テーマはどうであるか。

“それをわれのみをみんながみつけて起すといふ”
公演までプレークをみつけようという、無事に成功したといふ
ということになる。新人もみつけてそれをやるにはこの公演は
考えられるし、一つの芝居をこのようにやりとやるということでは
山を越えたいということだ。

三度出から発行したツリムは多数あるがその力配を
士とする組織がある。別な意味での三度出の補佐行重なる
回りの個人でいえるが組織でいえるものかという組織
的であることがあがる。ということもあがる。みんなが“好んず”といふこと
があるし組織もはうばうになるということもある。

一むかしの芝居をするか。一は多量である。団・歴
(創り)の人は多量である。そして同時代である近代の作品を
くぐりたいということがあるが前者は成功しか、後者は
作品の大まかにするアプロのしんじきである。これは色々
なことがあるが、まずは正当な芝居づくりが成立して
きたことにあがる。このことについて色々あるがそれは時間的
制約がきつたのしんじきであるということだ。そしてタタキ
部集と局面のあきにより、けい方法に悩むことがあがる。
そして2時間30分の通しげんがまちうけになる。あがる。
仕事を終えたのけいと作品上持しているけいの大まかと
多数の出演者の大まか、なでやうに正当な芝居づくりが出

来なかったから テーマを考へてのものは成立しなかったものもある

6. 自由な意見交換について

意見と聞いただけでなく、話せたいということでもありたいから
ということがある。つまりこの作品に対する構築の仕方の
意見交換は大切なことだ。また自分が背負っている芝居の
軽馬鹿上の歴史を創造もしたい。得意な分野から
の作品のみかたによりたいものもあるだろう。

どうこの作品が今の時代に必要なのか、どうかからないのか、
どうしたいのか、どんな作品にしたいのか、どう観望人とど
けるのか、この作品を舞台化するにあたって何を核として
どうそれを構築するのか、そのためには今何が足りないのか
どうすればいいのかなどを考える必要があり、あつても、し
ていなければならぬ人にもなる。意見交換は必要で
作品が生まれる上で話し合うことがもと互いに必要で
ある。作品についての勉強が、読みがたい、読む、読む、読む
努力の仕方があり、こういうことにはいたした。

7. 普及について

劇団員が券売りのクラフがなかなか赤くなっている
人がいた。これは問題だ。

1200もよくあつたりする。

1000を超えようという目標が達成できていない。

チケットは金券をから返考はかなうまい。